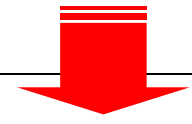


平成 30 年度 武雄市立川登中学校 学校評価 結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点方針
自立の精神に満ちた 豊かな人間力の育成	(1) 確かな学びの充実 (2) 豊かな人間性と社会性の育成 (3) 生徒自らの活動の推進 (4) 地域との共生と創造性の育成



3 目標・評価

(1) 確かな学びの充実

領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	担当分掌	達成度	成果と課題(達成度の理由)	具体的な改善策
教育活動	●学力向上	基礎・基本の習得と活用を図る指導	◇学習状況調査等において全教科県平均を上回る。	<ul style="list-style-type: none"> 数学(全時間)・英語(週2時間)においてはTTあるいは少人数指導を行う。 放課後学習を積極的に実施し、補充学習を充実させる。 	学力向上 コーディネーター	B	<ul style="list-style-type: none"> 12月に行われた学習状況調査によると、1年は5教科中2教科で、2年生は5教科中4教科で県平均を上回った。下回った教科についても県対比0.9以上が多くあと少しの状況である。3年生については4月調査のみなので検証できないが、昨年度比では向上している。 数学(全時間)・英語(週2時間)においてはTTあるいは少人数指導を行った。特に3年数学では習熟度別少人数授業を年間通して行った。放課後学習においては3年生の3年生受験対策を中心に約50時間行った。 アンケートスコア【78】 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の定着のため学校と家庭が連携した取り組みが必要である。 電子黒板とタブレットPCの双方をうまく活用した学習活動について研修を深める必要がある。 スタディサプリの効果的な学習方法について模索する必要がある。
		家庭と連携した学習環境づくり	◇平日の家庭学習時間が2時間以上になる生徒の割合を65%(H29-58%)に向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> 「学びの学習会」において、自分の学習方法について吟味改善する機会を年2回設定する。 	学習習慣・環境部	C	<ul style="list-style-type: none"> 「学びの学習会」において、家庭での学習時間をいかにして生み出すかを考えるタイムマネジメントについて4月と10月に2回実施したが、生徒アンケートでは2時間以上できたと思う生徒が53%(保護者35%・職員13%)であり目標を達成することができなかった。 アンケートスコア【56】 	
		ICT機器を利用した学ぶ意欲を高める指導の工夫	◇「家で、学校の宿題をしている」と答える生徒の割合85%(H29-77%)以上をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣アンケートを行い改善点を見出し、その対策について全職員で取り組む。 	情報教育推進リーダー	B	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣アンケート、テスト前の学習計画表などの取り組みを行い、宿題に取り組む姿勢が向上するよう努めてきたが、きちんとしている生徒89%に対し、保護者75%、職員67%でありそれぞれの認識に開きがあった。 アンケートスコア【76】 	
	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	◇タブレットPCを使った学習時間(スタディアプリ)を年間100回以上行う。 ◇電子黒板とタブレットPCを連携させた学習を充実させる。(スタディノート10の活用)	<ul style="list-style-type: none"> タブレットPCの有効活用についての研究を深める。 プログラミング学習にPepper利用により取り組む。 電子黒板と生徒用タブレットPCを活用した授業研究会を実施する。 	情報教育推進リーダー	B	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を利活用した授業が職員間に十分浸透しており活用頻度も非常に高くなった。またこれらを利活用した授業公開も全職員が行った。 タブレットPCを使って個別に学習するスタディサプリにも年間を通して取り組むことができた。プログラミング学習についても全学年計画通り取り組んだ。 アンケートスコア【76】 		

(2) 豊かな人間性と社会性の育成

領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	担当分掌	達成度	成果と課題(達成度の理由)	具体的な改善策
教育活動	●心の教育	人権・同和教育の推進	◇講師招へいによる職員研修を年2回以上実施する。 ◇人権をテーマにした学活や道徳の授業を全クラス1回以上行う。	<ul style="list-style-type: none"> QUにより学級集団や生徒の状態を把握し適切な支援を行うことにより学校生活満足群の割合を向上させる。 全生徒が人権作文・標語に取り組むよう指導する。 	人権・同和教育	B	<ul style="list-style-type: none"> QUを年2回実施し、その結果分析のために講師招へいによる研修会を実施した。学級集団や生徒の状態を把握し適切な支援を行うための具体的な改善策を講じることができた。 全生徒が人権作文・標語に取り組むことができた。またこれらの作品を集会などで発表する場を設け、全校生徒が深く考える良い機会となった。 アンケートスコア【73】 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の人権意識をさらに向上させるための取り組みを充実させることで、支援を要する生徒への接遇態度の改善につなげた。
		特別支援教育の推進	◇共通理解のもとでの支援ができるように生徒理解のための職員研修を年3回実施する。	<ul style="list-style-type: none"> アンケートや教育相談による情報の収集および保護者等への情報の提供を行う。 特別支援教育委員会を適宜開催し学校全体での支援体制を充実させる。 	特別支援教育コーディネーター	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の特性に応じた支援をどうするかについて職員間で密な情報交換に努めた。特に外部講師を今年度3回招へいし、具体的な対応策について協議した。空き時間の職員を要支援生徒に付き添わせたりしてできるだけ生徒の困り感が取り除けるように配慮した。 アンケートスコア【74】 	

●いじめの問題への対応	道徳教育の充実	◇全学級「道徳」の授業を保護者等に公開する。 ◇特別の教科「道徳」実施に向けた研修会を年2回以上実施する。	・道徳の授業年間 35 時間にしっかりと教師が取り組む。 ・講師招へいによる道徳の教科化に伴う職員研修会を行う。 ・特別の教科「道徳」の完全実施に向けた準備を整える。(評価方法や通知表様式改訂など)	道徳教育	B	・完全実施を来年度に控え、講師招へいによる研修会を理論編・実践編に分けて2回実施した。 ・ふれあい道徳での授業公開では、授業について各学年十分に検討し工夫を凝らした授業を展開した。また3年においては、立式式においてこれまでの生い立ちをふり振り返りに感謝する気持ちをしっかりと表すことができた。また将来の夢についてしっかりと意思表示することができた。 アンケートスコア【76】	・いじめ早期発見・対応に引き続き重点項目として取り組んでいくために、対処的ではなく積極的な生徒指導を推進し、生徒と教師の関係が風通しの良いものになるよう信頼関係を今後さらに強固なものにしていく必要がある。
	規範意識の向上を目指した指導の充実	◇「学校に行くのは楽しいと思う」という問いに「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合 80% (H29-73%) 以上をめざす。	・「学校生活アンケート」を定期的に行い、その結果内容を全職員で共有して対処しいじめ撲滅をめざす。 ・授業規律や生活ルールを守ることを徹底させ、生徒の落ち着きのある学校生活をめざす。	生徒指導	B	・「学校に行くのは楽しい」とアンケートに答えた生徒は生徒 79%、保護者 89% という結果であり、おおむね目標を達成した。 ・定期的な生活アンケートの結果を受けて、指導を要する事案も数件あったがその都度きちんと対処することができた。 アンケートスコア【79】	
					B	・アンケートの結果では「学校でのルール等は守れている」と回答したのは生徒 92%、保護者 88%、職員 47%であり、認識の差が大きかった。学校としてはまだまだきちんとできるところが多くあると考えている。 アンケートスコア【73】	

(3) 生徒自らの活動の推進

領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	担当分掌	達成度	成果と課題(達成度の理由)	具体的な改善策
教育活動	○生徒の自己肯定感を高める指導の工夫	学校行事等への生徒の参画意識の向上	◇体育大会などの学校行事に積極的に参加したと答える生徒の割合 93% (H29-91%) 以上をめざす。	・生徒中心の実行委員会を設置し、生徒の自主的な運営が促進されるよう支援を行う。 ・生徒会による企画運営の機会を多く与える。 ・できるだけ生徒に任せられるように運営上の環境を整える。	生徒会	A	・どの学校行事においても生徒たちは持てる力を十分に発揮し精一杯頑張った。アンケート結果(積極的に参加したか)は生徒 96%、保護者 94%、職員 93%ですべて 90%以上のハイスコアであった。生徒会活動についても自主的な発案による取り組みが増え意欲的な活動を行うことができた。 アンケートスコア【84】	・生徒の自治的・自主的活動を、今後さらに推進していくことで、生徒の学校に対する満足感・充実感を向上させていきたい。
	●健康・体づくり	部活動の推進	◇部活動が充実していると答える生徒の割合 80% (H29-75%) 以上をめざす。	・顧問・外部指導者・保護者との連携を密にし、部活動の内容を充実させ競技力等の向上をめざす。 ・臨場による指導を増やし練習態度の向上をめざす。	体育主任	B	・充実していると答えたのは生徒 79%、保護者 82%であり目標をおおむね達成している。ただ保護者からの要望も多様化しておりその対応に苦慮する場面も多かった。また部活動休養日をはじめとした改革も進んでおり、これからスムーズに移行するためにその状況に注視する必要がある。 アンケートスコア【78】	
		朝食喫食率の向上	◇「朝食を毎日食べている」生徒 90% (H29-86%) 以上をめざす。	・朝食の大切さについての学習や掲示板などによる啓発を積極的に行う。 ・食育だよりなどで家庭への協力も呼びかける。	食育 ・給食指導	A	・朝食の喫食率は生徒の回答で 89%であり、数値的にはおおむね達成しているが、休日の場合や朝食の内容については、家庭と連携し改善しなければならない点はまだ多くある。 アンケートスコア【86】	

(4) 地域との共生と創造性の育成

領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	担当分掌	達成度	成果と課題(達成度の理由)	具体的な改善策
学校運営	○地域と学校の協働による学校づくり	地域と学校の相互の関わりを深める教育活動の推進(コミュニティ・スクール)	◇地域人材を活用した授業や行事を年5回以上実施する。 ◇情報公開を推進し、学校HPの更新回数を100回以上行う。	・学校運営協議会を開催し地域人材を生かした教育実践ができるような環境を維持発展させる。 ・学校HPや配信メールにより常に新しい情報を豊富に提供する。 ・学校だよりや学級だよりを定期的に発行する。	コミュニティ・スクール	A	・学校運営協議会2年目にあたり、学校・地域の連携について意見交換しているおかげで、地域に根差した学校運営が今年度もできた。特に地域の協力なしではできない学校行事も多くあり、その橋渡し役を担っていただくことは大変ありがたかった。 アンケートスコア【81】	・本校の永年の伝統である郷土芸能の体験を今後も継続するために、地域の方々のご協力を仰ぎながら、指導者の確保に努めなければならない。 ・働き方改革の実現に向け、業務の見直し、業務遂行のための創意工夫、業務遂行に対する意識改革など、積極的に推進していかなければならない。
		伝統や文化の理解・継承・発展を図る教育活動	◇各地区の伝統芸能を体験させる機会を設ける。	・地域の方を講師として招へいし郷土芸能を指導してもらう。		B	・5月体育大会での荒踊り、12月の篠笛練習など地域の方々の協力のおかげで校区に伝わる伝統芸能を体験させることができた。事後アンケートでも「楽しかった」「またしたい」と答える生徒の割合も多かった。 アンケートスコア【77】	
		関係機関との連携強化	◇地区公民館やまちづくり協議会と連携した取り組みを3つ以上行う。	・町民運動会は学校行事として参加させる。 ・地域奉仕活動に生徒会を中心に組みこませる。 ・地域行事に生徒を参加させるために学校行事や部活動の時間を配慮する。		A	・町民運動会、相撲大会、町文化祭など数多くの町行事において、生徒が活躍できる場を設定していただいて、それに学校は応える形で街づくりに貢献させることができた。生徒100%が地域行事に積極的に参加できたと答えている。 アンケートスコア【86】	
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	教職員の連携促進	◇明るい職員室づくりを目指し、使命感と情熱にあふれ、教師力の向上に努める職員集団を目指す。	・朝礼や業務上のコミュニケーションを大事にし、それぞれの業務の進捗等の情報を共有し、職員間のフォロー体制を強化する。 ・会議や事務の効率化を図り、教職員が生徒と向き合う時間を確保する。	総務	A	・アンケートより「職員室は皆さん優しく楽しい」、「授業様子を報告し合うなど教師力の向上に努める環境だと思ふ」、「相談しやすく、明るく仕事に取り組める雰囲気だと思ふ」などの回答を得るなど93%の職員が本校職員集団に好印象をもっている。 アンケートスコア【87】	
校務処理の効率化		◇校務に関する電子媒体の更新・改編作業を推進し、実情に即した内容にすることで、校務のさらなる効率化を行う。	・通知表、指導要録等の作成ファイルの内容を改編・更新する。 ・全職員が校内グループウェア、SEI-NETなどの有効活用するよう啓発する。	A		・誠心誠意かつおおむね滞りなしの業務遂行ができています。時間外業務も他校に比べ極端に少なく、部活動終了後、ほとんどの職員が退勤している。2月現在ほとんど毎日19時前までに全員帰路についている。校内グループウェア、サーバーによる業務関係ファイルの一括管理が校務の効率化につながっている。 アンケートスコア【83】		

●： 共通評価項目のうち必須項目

◎： 共通評価項目のうち特定課題

○： 学校独自評価項目

アンケートスコア： 生徒・保護者・職員によるアンケートの回答の平均を100点満点に換算したもの。